



NANKAI
chemical

クロルピクリン 錠剤

による、

「うね立て後土壌消毒」法



特性

- 萎黄病、炭疽病、センチュウ類、雑草等の発生を抑制します。
- 土壌中の無機態窒素が増加するので、いちごの窒素吸収量が多くなり、葉柄長、葉身長、葉幅が大きく、初期生育が旺盛になります。
- いちごの発根量が多く、総収量増加も期待できます。
- 慣行土壌消毒法に比べて土壌中の有機物の無機化割合が多く、長年継続施用すると地力の低下が懸念されます。 **堆肥などの施用** を心がけてください。

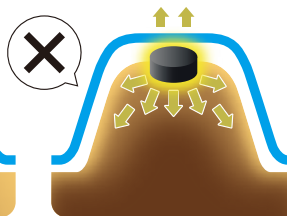
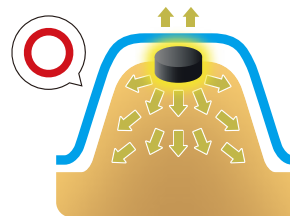
Point

「うね立て後土壌消毒」には乾燥が大切！

シートで表面を覆い、クロルピクリンガスを土中に浸透させる「うね立て後土壌消毒」法は、ガスを一定期間シート中に閉じ込め、土中にできるだけ早く、深く浸透させることが効果を高めるコツです。ガスの通りを良くするためにはうねをできるだけ乾燥させる必要があります。

乾燥の目安

- ① 表面は白く乾いている。



- ② 地中 5～10 cm の土を軽く握って放すと、2～3 個に割れる。

土を握ろう



1 畑や消毒の準備

- ① クロルピクリン処理前に必ず残渣を取り除いてください。

- ② うね立て前に堆肥や基肥を入れておきます。

基肥は通常より3割程度減らしてください。

- ③ うね表面の整地は必要ありません。

錠剤は中央のくぼみに散布します。

- ④ うねを乾燥させてください。うね立て後数日間はそのまゝの状態にしておきます。



被覆シートをうね間に準備しておきます。

2 薬剤処理・工夫への追加



錠剤を凹んだうねの表面にばら撒き散布します。



地表面が白く乾いているくらいの湿り気がまき時。

工夫

- 長いうねの場合、うねの途中に目印をつけておくと、散布間隔の目安となります。
- 半うねでは、傾斜部に棒などで軽く溝を掘っておくと、錠剤の散布がしやすくなります。

まき時

うねの表面が白く乾いてきたら、深さ 4～5 cm の土を握って乾燥状態を確認します。錠剤を包んでいるフィルムはわずかな水分によって緩み、土中に浸透し、拡散します。

注意

錠剤は地表面に穴や溝を掘って埋め込む必要はありません。

3 被覆

シート被覆はクロルピクリンガスの効果を高め、無駄な揮散を防ぐために欠かせません。処理後は必ず農ポリ等（0.03 mm 以上）で被覆を行ってください。

注意

うね面を覆土してください。薬剤が被覆資材（特に農ビ）に直接触れると穴が開くおそれがありますので、覆土して直接触れないようにします。



覆土



被覆

4 被覆除去・定植

標準的なくん蒸期間

平均地温	くん蒸期間
25～30℃	約 10 日
15～25℃	10～15 日
10～15℃	15～20 日
7～10℃	20～30 日

定植時の灌水のお願い

クロルピクリン処理時にうねをよく乾燥させたので、灌水は入念に行い、土中に十分水分が行き渡るようにしてください。

ガス抜きは不要です。標準的なくん蒸期間の表を目安に被覆を除去し、定植を行ってください。

※気象条件や土質等によっては、標準的なくん蒸期間よりも長くなることも考えられますので、ご注意ください。

高設栽培での利用

- ① 培地は適度な湿り気があり、表面が乾いた状態のときが、散布に適しています。
- ② 培地の幅が 30cm の場合は、30cm ごとに 1 錠を置いていきます。
- ③ 処理終了後、速やかに農ポリ等でベッドの開口部まで覆い、ガスが漏れないようにします。

注意

処理後、錠剤の残渣が目につきますが、いちごには無害です。



高設栽培

親株床での利用

秋（一定の地温が保たれている時期）に消毒を行います。高設採苗、土耕採苗等の方法がありますが、地表面処理、高設栽培に準じて消毒を行ってください。



高設栽培